

[主訴]

不妊症

[随伴症状]

冷え性あり、夜間排尿なし、時々腰痛あり、肥満なし、足やお尻の冷えを強く感じる、疲れやすい、倦怠感はなし、食欲ふつう、耳疾患なし

イライラは少しあり、眼精疲労なし、爪異常なし、筋痙攣なし

胃もたれなし、四肢のだるさなし、味覚正常、出血傾向なし

[経過]

3年前に不妊治療開始。

排卵誘発法、人工授精、体外受精などいずれも結果が出ず、友人のすすめで鍼灸に興味をもち来院。不妊治療で体力を消耗し、体調はよくない。疲れやすくなった。

10代の頃から冷え症があり夜は足が温まらずなかなか寝付けない。

30代のうちに子供が欲しいとのこと。

[切診]

全体的に熱感がなく、特に足首から先は冷えを強く

感じる。

太谿穴の陥凹と冷えが強い。

背部膀胱経やや緊張気味。

舌色白。唇は口紅で色判断不可。

[腹診]

臍下力なし、冷感あり。

[脈診]

細く無力。

左尺中腎部がやや堅い。

[証の決定]

腎虚寒証

[治療]

太淵、太谿の補法。

陽池の補法。

[備考]

自覚症状として冷えがあり、触診でも冷えが顕著。

脈やその他望診でも明らかに寒の状態。

随伴症状などから肝や脾の病証よりは腎の病証が目立つため、腎の精の虚が原因で不妊症と四肢の厥冷を併発していると考える。

週 2 回の来院をすすめる。

10 診で足の冷えの改善を実感し、夜の寝つきが良くなった。

30 診で以前より体力がついてきて動ける時間が長くなり散歩を始める。

約 35 診で身体の冷えが以前より大分よくなった。

そろそろ体外受精を考えていると言われたが、身体の準備ができていない状態での不妊治療は結果も良くないし、母体へのダメージも大きいのでもう少し鍼灸治療で体力をつけることをすすめる。

約半年の治療で客観的にも冷えが改善し見た目に力がついてきて、脈や腹証も冷えの所見がなくなってきたため「おそらくもう妊娠できる身体になっていると思います」と伝える。

その後鍼灸治療を続けながら体外受精の治療を受け、鍼灸治療開始から約 9 か月で無事妊娠。

現在は妊娠 6 ヶ月目で月に 2 度程治療しているが体調は良好。

不妊症が主訴で来院される方のほとんどは臓腑の虚が強い。虚が強いと、妊娠しづらく、妊娠しても流产してしまうことが多い。

そのため母体の体力強化の治療が基本となる。

臓腑の虚が強くない場合は不妊治療で早い段階で妊

娠する。

不妊症で鍼灸治療に来院される方は「はやく妊娠したい」という思いが強いため病院での治療も積極的に受けているが、鍼灸治療で体力をつけてから病院で不妊治療を開始した方がよい。

病院での不妊治療で体力を消耗し臓腑の虚が悪化するとますます妊娠しづらい状態になる。

今回の患者さんの場合も、冷えの症状が強いうちはなるべく身体に負担をかけず、体質を改善し、妊娠に耐えられる母体作りが最優先となる。

結果、治療に約9ヵ月は要したものの、無事妊娠でき、妊娠してからも体調は安定している。